

ロスト阪神

あの日の光景

④

朝日を受けて、海から突如、浮かび上がるライオン像。引き潮とともに、海岸のあちこちから四角や丸い人工石が現す。その様子は、まるで海底からよみがえる旧都市のよう。

冬の到来とともに、毎年渡り鳥たちが飛来する西宮市の甲子園球場。貴重な自然海岸が残るこの場所には、かつて「初代」の阪神パークがあった。海中には「東洋一」とも呼ばれた遊園地の遺構が眠っている。

ライオン像の像はパーク内にあった浴場に使われていた湯口部分。今のスノーパ―銭湯みたいなものです。旧鶴屋村の歴史に詳しい武庫川女子大学の丸山優夫教授(60)が教えてくれ



阪神パーク

「浜甲子園阪神パーク」は1933年に開園。「近代遊園地の草分け。戦争が近づく中、せめて明るい夢を見ようとしたのでしよう」

★ ☆ 戦後、2代目のパークが



大勢の親子連れが詰めかけた阪神パークのテラックスプール。1970年7月(西宮市情報公開課提供)

「浜」の字を外して、約1km北東の甲子園八幡町に移転。ヘリコプター塔や無料で入れたプラネタリウムなど、多彩なアトラクションが入る。ピーク時は年間135万人の入場者が押し寄せた。

とひわけ注目を集めたのは、ヒョウとライオンを入工的にかけ合わせた「レオポン」。ただ、生命倫理上の問題があると批判もあ

海中に眠る、初代の遊園地

り、一代限りとされた。市情報公開課で保管してあるパークの写真を見せてもらった。その中に一つ、見覚えのあるものが。半球型のカッパ風の回転遊具「これ、乗ったと、あります」

1年後には跡地に「ららほー」と甲子園」が建てられ、09年には「キッズシアター甲子園」が完成した。施設の入り口には、かつてのよすがを残すものとして、パークのことを英文で記した小さな塔がある。

懐かしすぎて思わず声が出た。あれは確か5歳のころ。見た目のかわいさとは裏腹に、かなりハードな乗り物で、床とカッパが異なる方向に回転し、体がぐるぐるんと振り回される。両親にせがんで乗せてもらったものの、激しく酔った思い出がよみがえる。

2003年、惜しまれながら開園した阪神パーク。(前川茂之)



さまざまな仕事が体験できるキッズシアター甲子園。西宮市甲子園八幡町

キッズシアター甲子園 2009年3月オープン。国内では西宮と東京のみ。約60の企業パビリオンで、約100種類の仕事が体験できる。3~15歳が対象。インフォメーションセンター ☎0570・06・4201